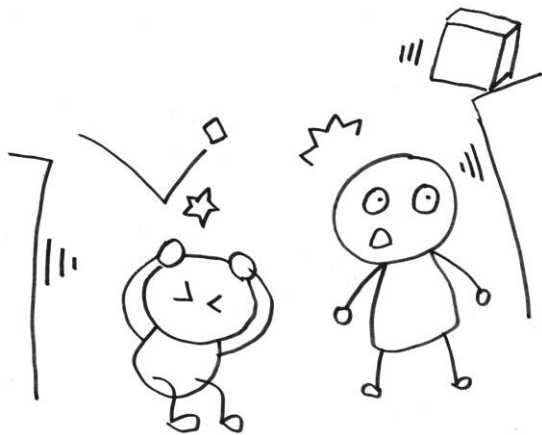


Q・009

「災害時の対応について」



災害時、聴覚障害のある子どもは周囲の情報が音声では正しく入りにくく、被害状況、避難方法、避難場所がわからないことがあります。そこで、今回は学校での災害時の対応を紹介します。

(1) 学校では

スピーカーからの音声を補聴器や人工内耳を通して聞くと、より不明瞭になります。災害時、緊急校内放送があっても、聴覚障害のある子どもはとても聞こえにくいです。普段の避難訓練の時から、誰が非常を伝えるのか、誰と一緒に行動するのか等の対策を子どもと話し合うと良いでしょう。何かあったときに、「聞こえない」ということを常に思い出してもらえるように、全体で意識できる学級作りをすると良いと思います。

群馬県立聾学校では、災害などの緊急の場合、校内放送とともに教室や廊下に設置されたインジケーターで赤いランプの「非常」の表示が点灯し異変を知らせます。また、各教室には避難するよう知らせるカー

ドが常備されています。これはトイレに入っている子どもにも、ドアの隙間から差し込んで知らせることができます。

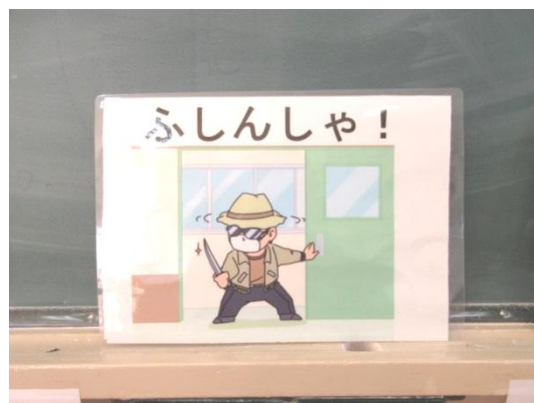
↓ インジケーター



↓ 地震対策のカード



↓ 不審者対策のカード



↓ 火災対策のカード
(火災発生場所を書き込む)



また、学校の対応を一斉メールで各家庭や保護者に連絡しています。群馬県立聾学校携帯サイトでも緊急連絡等を見ることができます。

(2) 避難所では

災害時、補聴器メーカーや販売店や大学病院等が、補聴器や人工内耳の電池を無償で支給することがあります。人工内耳で普段は充電電池を使っている人も、こんな時のために電池ケースがあると便利です。すぐに使えるように電池ケースの保管場所を確認しておくといいでしょう。

使用できる古い補聴器や人工内耳を予備として保管しておくのもいいでしょう。

避難所になるのは公民館や体育館など広い場所が多いです。人が大勢いる場所では子ども達はより聞きとりにくくなります。食べ物や物資の配給、炊き出しのお知らせなどの連絡は、絵・文字・手話・身振りなどで知らせる必要があります。情報が少ないことから不安になることがあるので、周囲の様子や災害の状況を知るために、新聞やスマートフォンのニュースサイト、音声認識アプリなどで情報を保障することで心の安定に繋がるでしょう。



人工内耳の
電池ケース



(3) 便利な日常生活用具

家庭で使う便利な機器として、火災警報発信器のセンサーが煙を察知すると、連動して振動で異変を知らせる機器があります。振動と連動して、パトライトが点滅するものもあります。将来自立するときのために購入して練習してみても良いでしょう。

障害者手帳があれば福祉の補助がありますが、給付上限額や耐用年数が決まっています。例えば、耐用年数が10年のものを買っていると、購入後10年間は、同じ対象種目のものは支援の対象にならないので申請ができません。最初の購入額が、上限額になっていなくても10年以内には申請できないです。ですから、使う時期をよく考えて計画的に支援制度を利用することをおすすめします。自治体によって対応が違うので、補聴器販売店や自治体の福祉課等によく相談してください。

